



# 業績ハイライト

Kirayaka Financial Group

## 主要な経営指標

### ■ きらやかホールディングス連結 (金額単位：百万円)

	平成18年3月期	平成18年9月期
連結経常収益	34,727	19,235
連結経常利益	3,445	△2,047
連結中間純利益	—	△757
連結当期純利益	1,412	—
連結純資産額	42,137	42,033
連結総資産額	1,280,079	1,305,456
1株当たり純資産額	334.90円	327.92円
1株当たり中間純利益	—円	△6.01円
1株当たり当期純利益	11.22円	—円
潜在株式調整後1株当たり中間純利益	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—
連結自己資本比率(国内基準)	8.84%	8.72%

### ■ きらやかホールディングス単体 (金額単位：百万円)

	平成18年3月期	平成18年9月期
営業収益	817	497
経常利益	636	357
中間純利益	633	351

(注) 1. 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
 2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。  
 3. 連結自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく大蔵省告示に定められた算式に基づき作成しております。なお、当社は国内基準を採用しております。

## 営業の概況

### ■ 連結子会社について

当中間期より、これまで殖産銀行、山形しあわせ銀行の連結子会社または持分法会社でありました殖銀カードサービス株式会社、しあわせユーシーカード株式会社、エコーリース株式会社、しあわせファイナンス株式会社の4社を、当社の完全子会社といたしました。

### ■ 収益の状況(きらやかホールディングス)

当社グループ全体の連結経常収益は19,235百万円となりました。また、当社の子銀行である殖産銀行で前向きな不良債

権処理を進めました結果、連結経常利益は△2,047百万円、連結中間純利益は△757百万円となりました。

また、当社単体における営業収益は、子銀行よりの配当、子銀行の経営管理料による収入により497百万円となりました。経常利益は357百万円、中間純利益は351百万円となりました。

### ■ 収益の状況(両行単体合算)

殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の単体決算を合算しました経常収益は、投信・保険等の預かり資産販売等の取扱残高の増加による役務収益の増加および資金運用利回りの上昇により資金利益が増加しました結果、前年比415百万円増加の15,539百万円となりました。同経常利益につきましては、殖産銀行の不良債権処理費用の増加により、前年比3,510百万円減少の△2,279百万円となりました。同純利益につきましては、前年比1,563百万円減少の△635百万円となりました。

また、銀行本来の業務による利益と言われますコア業務純益につきましては、投信・保険等の預かり資産販売手数料等の役務収益や有価証券利息配当金が増加いたしました結果、前年比62百万円増加の2,126百万円となりました。

### ■ 預金+預かり資産・貸出金(両行単体合算)

個人の金融資産運用の多様化に積極的に対応いたしました結果、預金+預かり資産残高は前年比369億円の増加となりました。また、貸出金残高につきましては、個人向けローンは堅調に推移しましたが、事業性資金の需要の動きが弱かったことから、前年比45億円の減少となりました。

### ■ 自己資本比率

当社グループの連結自己資本比率(国内基準)につきましては、8.72%となりました。

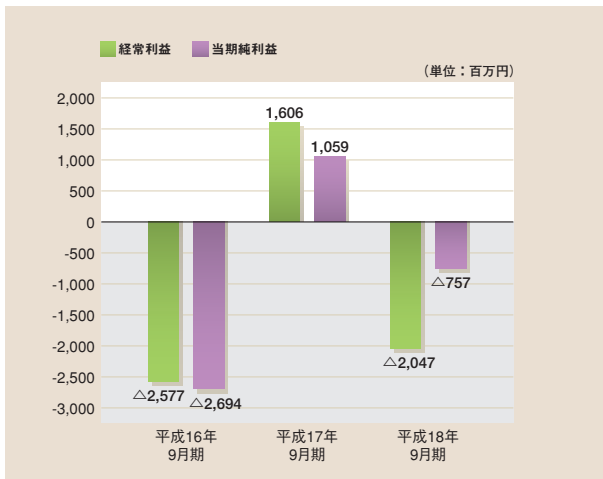


いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

## 業績ハイライト/きらやかホールディングス(連結)

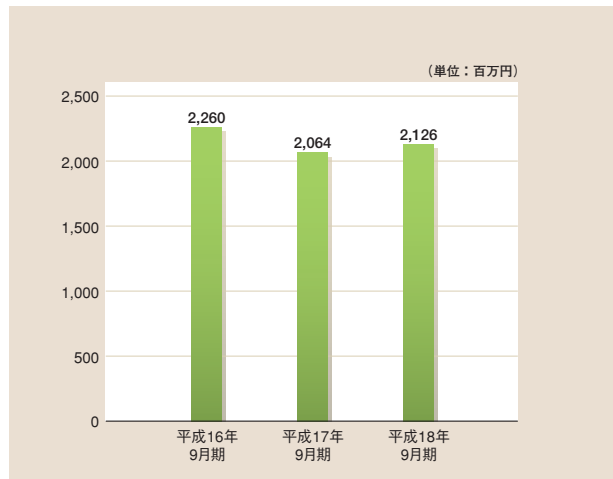
Kirayaka Holdings

### ■ 経常利益・当期純利益の状況

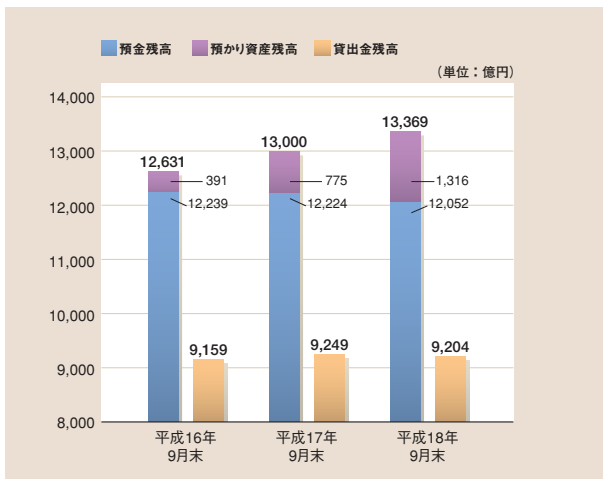


※16年9月期,17年9月期は殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の連結計数を合算して表示しております。

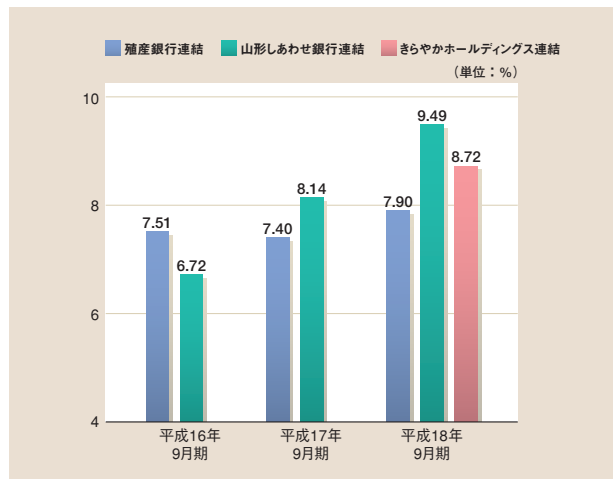
### ■ コア業務純益の状況(両行単体合算)



### ■ 預金+預かり資産・貸出金の状況(両行単体合算)



### ■ 自己資本比率の状況



※きらやかホールディングスは、平成17年10月設立のため当期からの表示となります。

- **コア業務純益** | 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の取支益の事を指します。
- **経常利益** | 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- **当期純利益** | 「経常利益」に「特別損失」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。
- **自己資本比率** | 総資本に占める自己資本の割合を指し、銀行経営の健全性や信頼度を示す指標のひとつです。

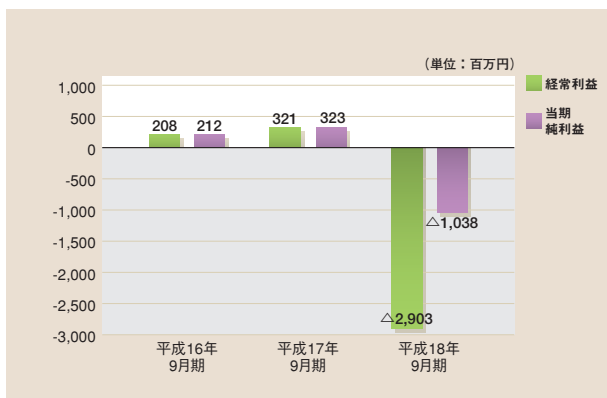
※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。 ※預金には譲渡性預金を含みません。  
 ※決算の詳細につきましては、きらやかホールディングスホームページ (<http://www.kirayaka-hd.co.jp/>) よりご覧いただけます。



## 業績ハイライト / 殖産銀行

Shokusan Bank

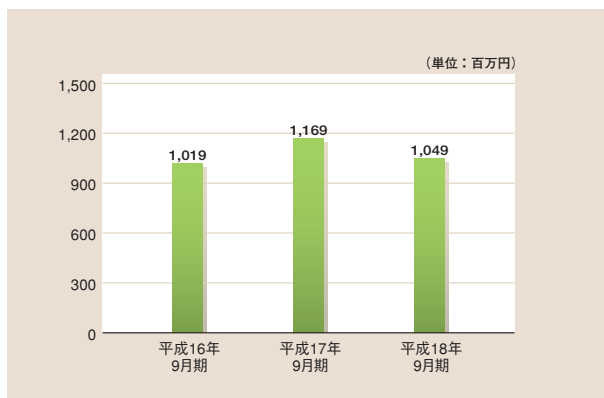
### ■ 経常利益・当期純利益の状況



新たな処理スキームの導入や更なる資産内容の健全化を図るため将来の損失見込に備え予防的な引当を追加実施したことにより、不良債権処理費用が3,427百万円と前年比2,482百万円増加し、経常利益は▲2,903百万円となりました。

また、当期純利益は厚生年金基金代行返上の特別利益を計上しましたが、繰延税金資産の取崩しを行いました結果、▲1,038百万円となりました。

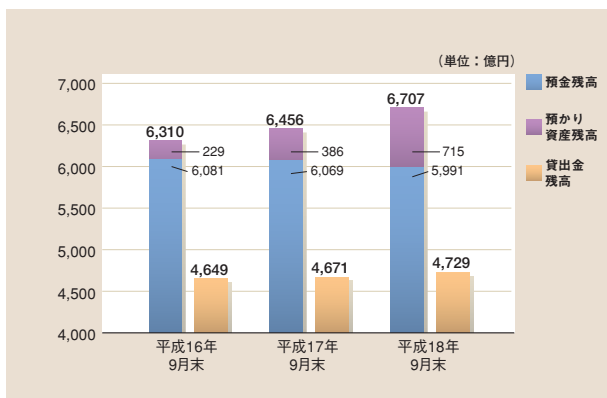
### ■ コア業務純益の状況



コア業務純益は、役務収益や有価証券利息等が増加しましたが、貸出金利息の減少や預金利息の増加及び統合費用の増加により、前年比120百万円減少の1,049百万円となりました。

なお、統合費用を除いたコア業務純益は前年比77百万円増加の1,254百万円となり、着実に収益構造の改善が進展しております。

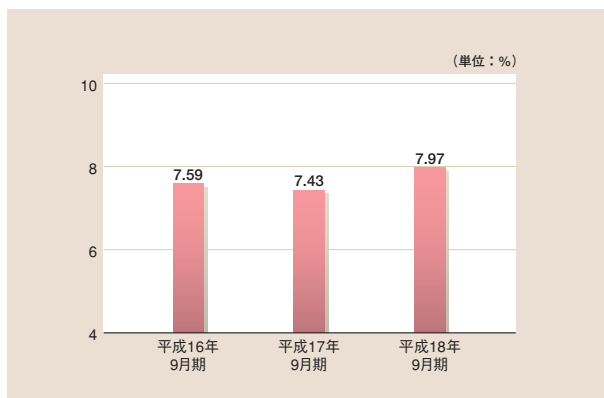
### ■ 預金+預かり資産・貸出金の状況



預金+預かり資産残高につきましては、個人の金融資産運用の多様化へ積極的に対応しました結果、前年比250億円の増加となりました。

貸出金残高につきましては、個人向けの消費者ローン等が順調に推移いたしました結果、前年比57億円の増加となりました。

### ■ 自己資本比率の状況



平成18年3月に60億円の劣後ローンを取り入れましたが、不良債権処理費用の増加に伴う赤字計上により単体自己資本比率は7.97%となりました。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。 ※預金には譲渡性預金を含みません。  
 ※決算の詳細につきましては、きらやかホールディングスホームページ (<http://www.kirayaka-hd.co.jp/>) よりご覧いただけます。

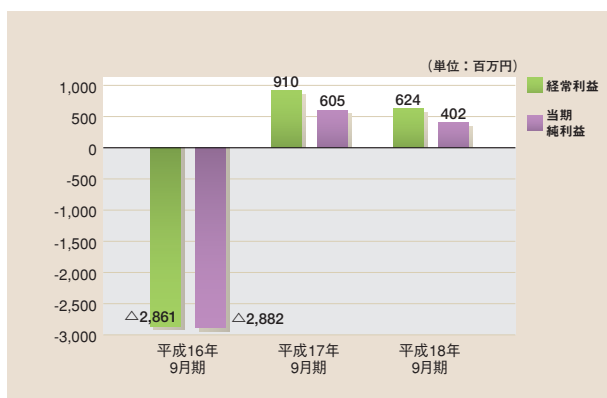


いつも、きらやかな笑顔が欲しいから

## 業績ハイライト／山形しあわせ銀行

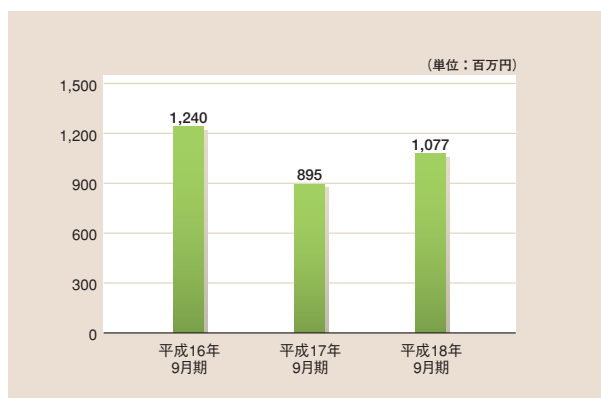
Yamagata Shiwase Bank

### ■経常利益・当期純利益の状況



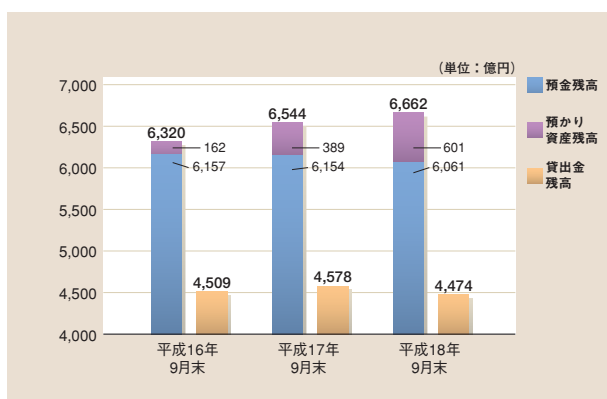
資産の健全化を目的とした貸倒引当金の繰入れ等により、経常利益は前年比286百万円減少の624百万円、当期純利益は前年比203百万円減少の402百万円となりました。

### ■コア業務純益の状況



市場金利の上昇に伴い預金支払利息が増加したものの、有価証券利息配当金や役員収益が増加し、また経費についても前年比減少したことにより、コア業務純益は前年比182百万円増加の1,077百万円となりました。

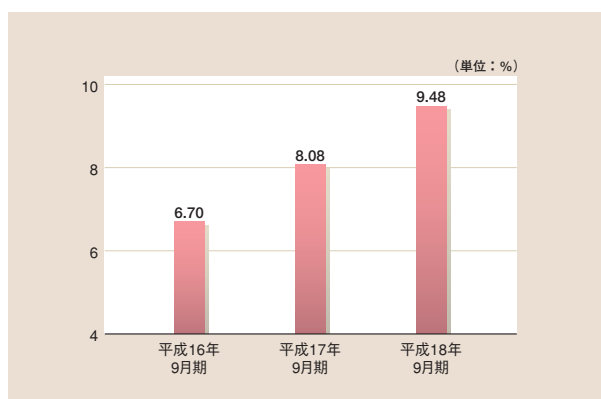
### ■預金＋預かり資産・貸出金の状況



預金＋預かり資産残高につきましては、個人の金融資産運用の多様化へ積極的に対応しました結果、前年比118億円の増加となりました。

貸出金残高につきましては、小口の事業性資金であるビジネスローン、アパートローンが増加しましたが、法人向け貸出金が減少したことから、前年比103億円の減少となりました。

### ■自己資本比率の状況



平成18年3月に劣後ローン60億円の調達を行い、自己資本の充実を図りました結果、単体自己資本比率は前年比+1.40ポイントの9.48%となりました。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。 ※預金には譲渡性預金を含みません。  
 ※決算の詳細につきましては、きらやかホールディングスホームページ (<http://www.kirayaka-hd.co.jp/>) よりご覧いただけます。